

馬の発育の調査から — 牧場ごとの発育のちがいを —

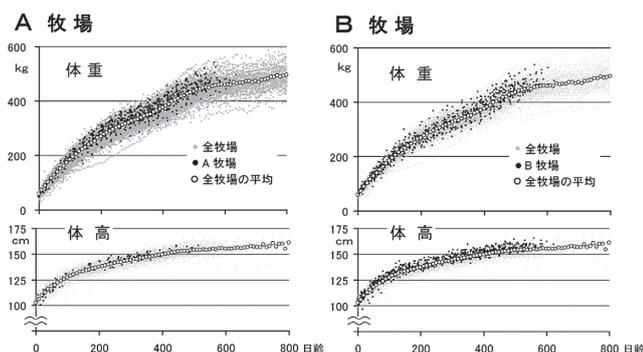
市場などで各牧場からいろいろな馬が集まり並べてみると、自分の馬がどの程度の体格の馬なのか、どれだけ注目を集める馬なのか、気になるものですね。牧場を見てみると、立派に見える馬ばかりの牧場もありますが、失礼ながら見劣りのする馬ばかりの牧場もあるようです。充分養っているようで近寄ってはみたものの、運動不足の理由によるのか太り過ぎていて、がっかりしてしまう馬もいます。

今回は、日高の27牧場から集められたデータを牧場ごとに集計してみたところ、馬の発育は牧場によって様々でしたので、そのいくつか典型的なものを紹介します。

全牧場のデータに、その牧場だけのデータを、重ねてグラフ表示しました。

A 牧場、B 牧場は高いレベルで推移している牧場です。体重も体高も、全牧場の平均より高い値となっているのが多いようです。A 牧場は体重も体高も、常に上位に推移しているようですが、B 牧場について、体高は上位でありながら、体重は冬を越えたところから差が出てきているようです。

図-1 A、B 牧場の体重・体高の変化



C 牧場は体重も体高も日高の平均の変化より低いレベルで推移している牧場です。冬期間の成長の停滞も強く影響しているようです。一方、1歳の夏ぐらいに急に太り出す馬もいるようです。

D 牧場はつい最近もGI優勝馬を出している牧場で、急遽一部のデータをもたらったのです。当歳時については、けっして見栄えの立派な馬ではないようです。このあとの発育が楽しみです。

また飼養方法に変更を加えているのか、馬の成長の様子が、年々変わっていく牧場もあります。生年別に分けてグラフを表示しました。

E 牧場は馬を大きく育てるようになってきた牧

図-2 C、D 牧場の体重・体高の変化

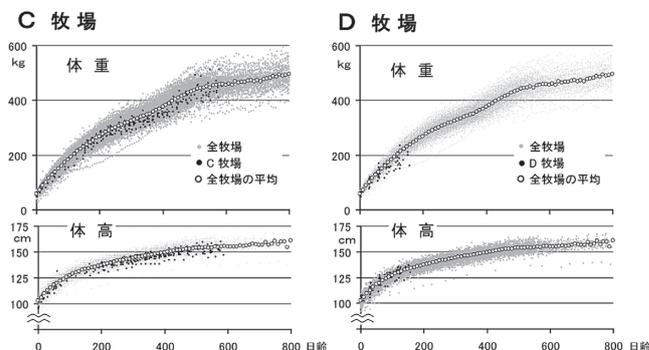
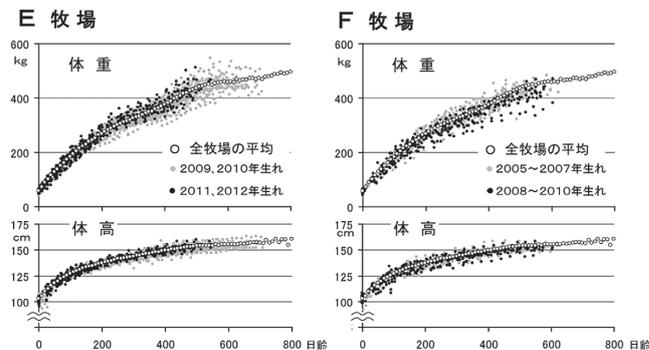


図-3 成長の経過が変化している牧場



場ですが、数年かかって変化しているのがはっきりしてきました。ここまで変えるには飼養方法の変更についてはかなりのリスクと努力があったのかも知れません。

F 牧場はむしろ馬を太らせないようにしたのかと思われる牧場です。なにか問題があって変更しているのかも知れません。

データを頂いた牧場は大小様々で、ほとんどが預託馬の牧場から、自身で競馬に使う牧場もあり、また騎乗運動までする牧場もあります。各牧場を訪ねて実際に馬を見たり、飼養状況等を詳しく聞きとったりすれば、推測や一般論ではない、その牧場に相応しいコメントが得られるのかも知れません。

普段から各牧場で自分の馬の成長をチェックして、それを客観的なデータとして記録しておくことは手間のかかる事だと思います。しかも、どのようなものが理想的な成長なのかも分かりません。成長を記録することは、面倒な意味のない事と感ずる事でしょう。しかし牧場ごとに飼養方法を考える上で、自分の馬が標準と比べてどうなのか、飼養方法に変更を加えてどのように変化したのか、意図した通りの成長をしているのかを知るには非常に大事な事だと思います。